

小規模企業景気動向調査 [2024年6月期調査]

～依然として続くコスト高により、後退傾向が加速している小規模企業景況～

<産業全体>

6月期の産業全体の景況は、売上額・業況 DI が小幅に低下、採算・資金繰り DI はわずかに低下し、4月期から3期連続で全 DI が低下した。特に売上額 DI は、プラス値を維持しているものの、直近1年間で最も低い DI となった。多くの業種において、人流の回復や、インバウンド需要の拡大等のプラス要因がある一方で、コスト高や消費者の節約志向等のマイナス要因の影響の方が大きい状況である。

DI	5月	6月	前月比
売上額	49	25	▲ 24
採算	▲ 172	▲ 177	▲ 05
資金繰り	▲ 14.7	▲ 16.4	▲ 1.7
業況	▲ 11.9	▲ 14.6	▲ 2.7

<製造業(食料品、繊維、機械・金属)>価格転嫁に限界を感じている製造業

製造業は、業況 DI がわずかに上昇したが、その他の DI は低下した。また、全業種にて前年同月比で売上額 DI が低下した。

食料品関連は、前月から引き続き全 DI が低下した。仕入単価・販管費の上昇に価格転嫁が追いつかないというコメントが増えており、特に資金繰り DI は大幅に低下した。機械・金属、繊維工業関連についても、価格転嫁に苦慮しているというコメントが多かったが、前月と同様に受注が回復傾向であるとのコメントも多く、採算・業況 DI が上昇した。業種によって景況感に若干の差が見受けられるが、全体として苦しい状況である。

DI	5月	6月	前月比
売上額	8.3	4.4	▲ 3.9
採算	▲ 16.1	▲ 16.6	▲ 0.5
資金繰り	▲ 16.6	▲ 21.6	▲ 5.0
業況	▲ 13.3	▲ 12.7	0.6

<建設業>需要の高まりに対して、歯がゆい状況が続く建設業

建設業は、売上額・採算・資金繰り DI が上昇したが、業況 DI が大幅に低下した。

全国的な傾向として、民間工事については、新築価格の高騰から新築工事が減少しており、売り上げの増加が見込みづらいというコメントが多かった。また、工事等の引き合いはあるものの、資材価格・人件費の高騰から1件あたりの利益率が低下している状況である。さらに、利益率の低下を補填するため受注数を増やそうにも、人員がおらず断念している事業者が多い。

DI	5月	6月	前月比
売上額	▲ 26	▲ 0.9	1.7
採算	▲ 21.9	▲ 20.0	1.9
資金繰り	▲ 18.4	▲ 16.4	2.0
業況	▲ 15.8	▲ 24.5	▲ 8.7

<小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)>消費者の節約志向への対応策が問われている小売業

小売業は、売上額・採算・資金繰り DI がわずかに低下した。

衣料品・食料品関連は共に、全 DI が低下した。どちらの業種においても、大手の販売店に価格面に対抗することは難しい中、特に生活必需品ではない衣料品については、節約志向の影響が大きく、販売が低迷している。一方、前月全 DI が大幅に低下した耐久消費財関連については、全 DI が上昇した。例年より早い記録的な猛暑の影響や、町等の消費喚起策の影響で、エアコン等の売上が伸びた。

DI	5月	6月	前月比
売上額	▲ 0.6	▲ 1.5	▲ 0.9
採算	▲ 22.2	▲ 22.9	▲ 0.7
資金繰り	▲ 18.3	▲ 19.2	▲ 0.9
業況	▲ 17.4	▲ 17.0	0.4

<サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)>旅館関連の不調から、苦しい状況が見えてきたサービス業

サービス業は、売上額 DI が大幅に低下し、その他の DI は小幅に低下した。

旅館関連は全 DI が大幅に低下した。前月からの低下要因としては、ゴールデンウィークの影響が大きく、前年同月比での低下要因としては、全国旅行支援が終了したことにより売り上げが低下したとのコメントがあった。クリーニング、理・美容関連については、固定客の多さから他業種と比較すると安定はしているが、依然として低い水準である。

DI	5月	6月	前月比
売上額	14.4	7.9	▲ 6.5
採算	▲ 8.8	▲ 11.0	▲ 2.2
資金繰り	▲ 5.5	▲ 8.5	▲ 3.0
業況	▲ 0.9	▲ 3.9	▲ 3.0

調査概要

・調査対象：全国 303 商工会の経営指導員(有効回答数:241/回答率 79.5%)

・調査時点：2024 年 6 月末

・調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。